

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきだいしのだるま
10-16	川崎大師のだるま

エリア	大師地区	シーズン	通年・冬
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代的な文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



だるまで埋め尽くされた店内（高橋太一商店）



今でも店頭に大事に飾られている
ずっしりと重い木型（かどや開運堂）

所在地	川崎大師仲見世通り・表参道
問い合わせ	川崎大師だるま会
TEL	044-266-6148（かどや開運堂）
FAX	
E-mail	
URL	http://www.e-daishi.net/list.php?cid=4 （川崎大師タウンネット／お店・商店街ガイド(だるま)）
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩6分



基礎情報

- 大師名物の土産物のひとつ、縁起物の代表「厄除・開運だるま」。江戸時代、元々の流行病除けから厄除け・家内安全・商売繁盛・五穀豊穡・大漁祈願等の縁起物として庶民の間で流行するようになり、1年ごとに一廻り大きなだるまに買い代えていく慣習も生まれ、日本人の心の支えとして定着していった。現在でも事業繁栄・工場安全・選挙必勝祈願などさまざまな目標達成祈願の縁起物として親しまれている。祈願の初めに男性は左眼、女性は右眼を書き入れ、願いがかなったときに両目を入れて開眼し満願成就をはたすのは大師のだるま特有の慣習という。
- 仲見世通りや表参道では、多くの開運だるまを取り扱う店が軒を連ね、1年中どの店でもところ狭しとだるまが並ぶ。選挙用必勝だるまや企業・運動部で飾る特大だるまの名入れの注文を受ける店も多い。
- 「川崎大師だるま会」は昭和20年代後半に5～6軒が集まって設立、現在は12軒が参加し、毎年当番店を決めている。昭和30年代前半の好景気の頃は、客の顔を見る暇もないほど飛ぶようにだるまが売れたという。今でも毎年8月頃から正月に向けての準備で忙しいという。

由来・エピソード

- 川崎大師平間寺の厳肅な密教儀式である「お護摩焚き修行」。だるまの赤い彩色と姿は、お護摩焚きの燃えさかる「火」をあらわし、上へ上へと昇る火のごとく運氣上昇の願いがこめられている。邪悪なものを焼き払い、人々の煩惱を消滅させる「火」も意味している。平間寺では毎年12月のご縁日「納めの大師」にて、だるまのお焚き上げ供養が行われる。
- 江戸時代の頃、だるまは疱瘡除け、魔除けの力がある玩具として子供への病気見舞いに格好の品であった。疱瘡神が嫌う赤色で覆うと、病状が軽くなり、痘跡も残りにくいと信じられていたという。元文元年(1736)頃には現在のだるまの原型であった「疱瘡除けだるま」が作られていたとみられている。戯作者で医学にも通じていた滝沢馬琴の孫が疱瘡を患った際に、馬琴は医薬を処方する一方で、赤の木綿の着物や頭巾、疱瘡除けの赤絵など、孫の周りを赤づくめにしたと伝えられている。こうした処置は中国医学の教えによったというが、実際に赤外線によって疱瘡が悪化しやすく、赤外線を遮る赤色を使うと悪化を防止できることが、1894年にデンマークの医師によって立証されているという。
- また、だるまの起源には、江戸中期に流行した倒しても起き上がる「起き上がり小法師」という玩具に、禅宗の高僧「達磨大師」が座禅を組む像を模してつくられたのがはじまりという説もある。達磨（ボーディダルマ）は、禅宗を開祖し150歳で入滅したと伝わる仏教の僧侶で、4世紀終わり頃に、南天竺国（南インド）の第三王子として生まれた。達磨はインドから中国へと渡海し、洛陽郊外の嵩山少林寺の洞窟内で9年間壁に向かって座り続け、悟りを開いたと伝わる。この「面壁九年」の故事にもとづき、「七転び八起き」の縁起をかついだ起き上がり小法師に達磨の顔を描くようになった。主に商人らの信仰によって日本各地に普及したとされ、赤い彩色は達磨が赤い僧衣を着ていたことに由来するといわれるものである。

補足・その他

- だるまには大きく2つの系統がある。「武州だるま」（越谷・岩槻）は江戸時代より川崎大師のだるまとして有名。全体に丸みをおび、鼻筋が通っているのが特徴。小さいだるまは髭が「鶴」、眉が「稲穂」をかたどり、大きいものは眉が「亀」になる。「上州だるま」は高崎だるまとして有名で、逆に髭が「亀」、眉が「鶴」をかたどっている。
- 40年ほど前までは木型に和紙を貼ってだるまの生地が作られていたが、現在は金型で成型されている。

関連シート

- (10-10)川崎大師表参道
- (10-11)だるまサブレ
- (10-13)川崎大師仲見世通り
- (10-17)川崎大師平間寺